

たまいたま 川柳



キンレンカ

ソフトウエア

願法みつる

人間とコンピュータとのゲーム戦ではチェスが有名であるが、日本でもこの四月、プロ棋士五人と五つの将棋ソフトが戦う第二回将棋電王戦が終了した。三月にはプロ棋士と囲碁ソフトによる第一回囲碁電聖戦も行われた。ソフトの侮れない能力が認識されている。

これはスタックというデータ構造技術によるらしい。コンピュータが単位時間内に指し手を探索する能力が、人間プロのそれに比べて桁違いのものだぞうだということから、素人考えでも領かざるを得ない。

芸術アートの世界でもコンピュータソフトの進出は凄まじい。しからば文芸言語の世界ではどうなのだろう。現に、俳句や川柳についてもソフトが出来つつあるらしい。単なる句集的なモノではなく、有限ではあるが膨大な語彙を駆使して、ある命題に対する五七五の一行詩を創造させるモノらしい。現時点ではそこに作者の「思い」を設定することが難しいから、出てくる句は珍奇なものになっていくようだ。喜怒哀楽を短詩にどう詠むか。今後の可能性は予測出来ない。

しかし今、川柳する我々が求めるモノは、人間同士の地に足つけた言葉や礼節を尊ぶ心の交流であろう。コンピュータ的な判断からすると原始的かも知れないけれど、笑いあり・涙あり・夢もあって伸び縮みする生身の人間関係に、しつぱりと浸りたいモノである。

七月号 目次

堅太郎句抄(十九)	表紙	2
巻頭言 ソフトということ	願法みつる	1
彩玉集 一人吟	石田 正則	6
柳人交流「興津幸代さん」	願法みつる選	9
雑詠	石田 正則	9
映像川柳		
さいたまの柳人 ③⑤	金子育司	17
七七句	松田重信選	18
古丘の世界	文・今村 寿子	21
拝啓 川柳様 其の八	大塚やまぶき	22
交替鑑賞 「感動を抱いて」	藤 あかね	24
第五回彩栄賞作品募集		25
初歩添削講座「偶然」雑詠	加藤孤太郎	26
題詠 「担ぐ」	加藤孤太郎 選	30
「鍛える」	石田 正則 選	30
「くさくさ」	藤 あかね 選	30
さいたま六月句会		32
白黒の世界と対応力の大切さ	田中 一義	37
インフォメーション		39
編集さろん	表紙	3
句会案内	表紙	4
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)		

平成25年

7 月号 (No.644)

日川協加盟